

# 令和5年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立箕田小学校

NO.

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	<p>1基礎基本の確かな定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モジュール学習の時間を有効に活用する。</li> <li>・児童アンケート「学校の勉強が分かる」94.8%を上回る</li> </ul> <p>2授業改革・授業研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な学びを生む指導(ICTを利用した授業づくり)</li> <li>・年2回の研究授業, それ以外に全職員が年1回以上の授業公開(成果と課題)</li> </ul> <p>どの学年も、基本的に毎朝モジュール学習に取り組むことが定着している。「読む・書くワークシート」や「読む・YOMUワークシート」の活用も基礎学力の向上に有効な手立ての一つだった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果より「勉強がわかる」の回答94.8%は素晴らしく、日々の取り組みの成果と感じます。</li> <li>・基礎学力の向上には、授業研究と基本(読む、書く、計算等)の繰り返しと積み重ねが大切と感じます。引き続き取り組みをお願いします。</li> <li>・「モジュール学習」という言葉を初めて聞いたので調べました。ICT機器やクロームブック等いろいろな学習の手立てにより子どもたちの学習意欲の向上に繋がっているとのことで、素晴らしいと思います。</li> <li>・2学期以降、子どもとニュースについての会話が増えました。モジュール学習「よむ、YOMUワークシート」で時事問題を扱ってくださっている効果だと感じました。</li> <li>・モジュール学習では、ICT機器を使わない学習をできていたら良いと思います。読む、書くや読解力、読書などを強化してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モジュール学習の内容の充実を学年間の系統性も考慮し、改善していく必要がある。</li> <li>・職員間の授業づくりに関する情報交換をさらに活性化させる。</li> </ul>
ICTの活用	<p>1 学習の課題にあったアプリやICT機器の活用を念頭に置き授業計画を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週3時間以上使う。」30.0%を上回る。</li> </ul> <p>2 Chromebookを教科の学習時における学び合いの場でICTを活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つ。」51.5%を上回る。</li> </ul> <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器をどう活用するのかを念頭に置き、授業のさまざまな場面でICTを活用することができた。</li> <li>・4年生以上は日常的にクロームブックを持ち帰り、自らの学習内容に応じて使用方法を考えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会においてはどの業種もICT化が進み、今の小学生が社会に出る頃には益々ICT機器も進化しているように思うわれます。学期より、活用していく機会を増やすことの必要性を感じます。又、その有効性を子どもたちが実感していくことが大切だと思います。</li> <li>・「勉強に役立つ」が50%を超えたのは、みんなが取り組みに慣れたことだと考えます。反面、苦手な児童は取り残される可能性があります。難しいことですが苦手な児童の指導をよろしくお願いします。</li> <li>・「週3時間以上PC、タブレットなどを使う」のは高学年が多いと想像できます。低学年はタブレット仕様は少ないでしょうが、タイピング練習を中心にもっと時間を撮ったほうが良いかと感じています(音声入力に慣れてしまう(簡単だから)心配があります。)。それにより中学年以上のタブレットを使ってする授業を充実させることにつながるのではないかと思います。</li> <li>・chromebookの仕様により子どもたちができることが増えたと思います。何かを調べることやスライドを使ってのプレゼンなど、楽しんで取り組んでいるように感じます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習におけるICTの活用のより一層の充実を考えていく。</li> <li>・さらにICTの活用を念頭においた授業づくりを進めていく。</li> </ul>
長欠減少	<p>1 欠席しがちな児童や保護者に寄り添い、働きかけを継続し子どもたちが安心して登校できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・30日以上欠席(12月末時点)の児童数を3人以下にする。</li> </ul> <p>2 子どもたちが学校生活を「楽しい」と感じる、授業や取り組みを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校アンケートで「学校では楽しく過ごしている。」75%を上回る。</li> </ul> <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席児童には、担任から保護者に連絡をし、児童と保護者に寄り添って課題解決に努めた。また、児童の欠席状況を教職員全体で共有し、みんなで見守る体制づくりができた。</li> <li>・アンケートの結果からは、楽しく過ごすことができている児童がほとんどであるが、楽しくないと感じている児童もいるので、100%に近づきようこれからも児童に寄り添っていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だけでは解決が難しい課題とされますので、家庭・地域・関係機関との連携を図り助めてください。</li> <li>・難しい取り組みだと思えます。取り残しの内容に継続してください。又、外国籍児童も増加傾向にあります。こちらでも対応宜しくお願いします。</li> <li>・長期欠席数が3人以下になっても楽しくないと感じている児童が少数になっても(数字が少なくなっても)問題は中身なので難しいと思えます。先生方の取り組み、見守りにはたくさんのご苦労、ご心配を感じます。</li> <li>・児童本人の体調や気持ちに関係してくるので、寄り添うことだけが良いとは思わないが、保護者と学校の関係づくりは大切だと思う。</li> <li>・欠席の理由は様々だと思います。なぜ欠席しているか把握はしているんですよね?今、30日以上欠席者は何人いますか?人数と理由を学校運営協議会で公表してほしいです。(学校での問題より家庭の問題が多いんじゃないかと思っていますが・・・違うかな?)</li> <li>・30日以上欠席している児童はどのくらいいるのかわかりませんが、全国的に不登校が増えている中で「楽しく過ごしている。」が75%を上回っているのは良いと思います。欠席しがちな児童はそれぞれ状況が違うと思うので、一人ひとりに合わせて寄り添ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の思いに寄り添えるように、まずは担任が寄り添っていく。状況に応じて、学年や学校、関係機関と協力を密にしてい</li> <li>・また、保護者ともよく話し、みんなで見守っていただける環境づくり・安心できる学校づくりを進めていく。</li> <li>・「楽しく過ごしているか」についての質問に対しての肯定的な解答、80%を目指す。</li> </ul>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">地域連携</p>	<p>1 学校の課題について、地域の方々と協議し解決に向けた取り組みを行う。        ・学校の課題について地域の方と協議する場を年5回以上設ける。        2 地域に開かれた教育課程を計画し実行する。        ・地域に子どもたちが興味を持てるようにするため、施設や施設、伝統行事についての学習を3回以上行う。</p> <p>(成果と課題)        ・学校運営協議会を年6回行い、子どもたちの学力向上や生徒指導上の課題について協議することができた。        ・2年生生活科の「校区探検」3年生社会科の「地区じまん」「虫おくり授業」、4年生体育科での「わくわくスポーツ体験」等地域の方を生かした授業を実施することができた。        ・「今住んでいる地域の行事に参加している。」30%(全国比 +9.7%)が示すように、子どもたちは地域の行事に積極的に参加することができている。</p>	<p>・長年学校と地域が連携し取り組まれてきたことを今後も大切に、その次代にあった内容を加えたり、アレンジしたりし、より子どもたちの社会性を育む取り組みをお願いします。        ・継続してください。        ・たくさんの学習がある中で、地域に絡む様々な授業の取り組みに先生方の熱意を感じます。協議委員でありながら決まったことには参加せず申し訳なく思います。        働き盛りの方は時間的な余裕がなかったり、仕事をリタイヤした年代は体力面の心配に加え、子どもたちとの関わり方が今の時代とズレていないか考えさせられたり、難しいと思います。地域連携という面で自分ができる範囲で少しでもお役に立てよう努力したいと思います。        ・地域の行事に参加することで、とても良い経験をさせてもらっています。子どもたちにとって一番身近な社会は「地域」なので、地域のことを知る、住んでいる方々と交流する機会を(設けることを)これからも続けていきたいと思います。        ・伝統行事が衰退していく中で、子どもたちが地域の行事に興味を持って参加することは、嬉しいことです。        ・学校運営協議会は18:00～にしてもらえると参加しやすいです。        ・学校運営協議会の場合、学校からの「報告」で終わらないようにもつと協議したい。多分コロナ(ソーシャルディスタンス)で大きな教室で行う事になったんだと思いますが輪が大きいと発言しにくい。こじんまりと協議したいです。地域の行事について30%、少ないなあと感じました。地域の行事に関わっているがわからしたら50%以上は参加して欲しいです。        ・地域の方が積極的に行事を催して下さることはありがたいです。「積極的に参加できている。」は素晴らしいと思います。子どもたちが地域を大切に思い活性化していつくれる未来につながると思います。</p>	<p>・学校運営協議会が計画通り実施することができたが、全員に参加いただくことができない日があった。全員が参加できる時間設定を工夫する必要がある。        ・学校の教育課程に地域の皆様に関わっていただくことができたが、登下校の見守りについて、参加いただく方が減少傾向にあるので、見守りを継続していくためにも募集方法や組織のあり方について協議が必要である。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">業務改善</p>	<p>1 総勤務時間の縮減に向けた取り組みの推進        ・定時退校日の設定(月2日)・19時以降消灯(月2日)        ・時間外労働の削減(月45H以上0人)        2 休暇取得の促進(+1日/年)        3 仕事の効率化        ・ワークシートや会議資料等のデータ化・共有化        ・会議・業務内容・行事等の精選・分担</p> <p>(成果と課題)        ・定時退校日について、月2回設定することはできたが、実施率については下降した。(R4 12月 82.4%→R5 12月 %)        ・時間外労働について月45H以上0人を達成することができている。時間についても削減することができた(R3 12月 30.3時間→R4 12月 21.5時間)。        ・職員会議等について提案資料の電子化が進み、印刷等の業務が削減されている。</p>	<p>・総勤務時間の縮減については、スクラップ&amp;ビルドの発想に基づき、思い切ったスクラップも必要かと思えます。        ・実施方法等を改善しながら継続してください。        ・限られた時間内での膨大な仕事量、先生方は大変だと思います。勤務時間の取り組みについては無理なく、心身ともに元気な姿を見せていただくことが一番の成果だと思います。        ・いろんな行事が復活して、子どもも保護者も楽しかったです。        ・担任の先生が土、日の地区行事(虫送り、町民運動会、町民球技大会、みだフェス、ジョギング大会)に参加してくれると子どもたちはすごく喜びます。そういうのに参加してくれた先生に代休とか時間外手当とか、土日行事に参加した先生の負担にならないためのシステムを作って欲しいです。(これは市のアンケートにも書きました。多分スルーされてますよね・・・)        ・先生方は授業に加え様々な行事や子どもたちのトラブル対応などたくさんの業務があると思います。忙しい中でしっかりと対応して下さることに感謝しています。少しでも業務を減らすためには、行事などを工夫すると良いと思います。</p>	<p>・新型コロナウイルスが5類になり、大きな行事が復活することで、勤務時間が増えていった。来年度以降行事の精選についてより高い意識が必要と考える。</p>